

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団みどりの会 酒井病院	代表者	長谷川 麻衣子	法人・事業所の特徴	利用者様・ご家族様に最大限活用して頂けるよう、時間延長サービス等を柔軟に受け入れ、医療法人が運営していることから、医療必要度や介護度の高い利用者様の受け入れも実施している。また、通いサービスにおいて、利用者様と職員が様々な行事を通して関わりを多く持つことで、馴染みの関係を築くことを目的に全体で取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能ホーム さかい	管理者	矢野 康行		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	2人	0人	1人	1人	0人	14人	1人	19人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	聞き得た利用者・家族の不安などの新たな情報や変更事項があった際には適宜職員間での共有を行う。(1日3回の申し送り実施)	1日3回の申し送りや連絡ノートを通じて情報共有を行っていますが、利用者の追加情報や変更事項の共有が遅れたり、職員間で把握している内容に差が出たりすることがある。	普段の業務の細部までを確認することは難しいものの、今回の自己評価の結果を拝見し、一つひとつの業務に取り組んでいることが確認できた。意欲的に努力されている姿勢を感じる。	情報共有のタイムラグを防ぐため、「即時共有ルール」を策定する。具体的には、重要な変更が生じた際、次回の申し送りを待たずに掲示板や共通ツールへ即時反映させる仕組みを検討、全職員の把握状況を平準化させる。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、感染予防対策を行い、安心して利用できる環境をつくっていく。事業所内に利用者様の作品を飾る等の環境作りに取り組んでいく。	感染予防対策を徹底し、安心して利用できる環境づくりに努める事が出来た。あわせて、事業所内に利用者様の作品を展示するなど、環境作りにも取り組んだ。	感染対策により、利用者の皆様が安心して過ごせるように維持できた。作品掲示などを通じて季節感や個性を大切に空間作りにも注力されており、ケア環境の構築ができたことが伝わった。	感染予防の徹底を継続した上で、利用者様の作品展示に加え、「季節行事の視覚化」をさらに推進するBCPマニュアルの図解化や役割分担の再定義を行い、有事の際も職員が自信を持って行動できる環境を整える。
C. 事業所と地域のかかわり	職員と地域の方との関わりを持てるように、講演会や地域イベントに参加し地域の方との交流ができる環境を作っていく。外出レクなどを計画し、少人数での関わりを検討する。	地域との接点を構築するため、地域イベントへの参加を通じた交流促進に努めた。また、外出レクリエーションについても検討を進め、現在は感染状況等に配慮しながら、少人数での実施に向けた計画・調整を行った。	感染症対策と、地域交流の促進という難しい両立に取り組んでいる。少人数制での外出レクの計画も、利用者様の楽しみを創出し、現場ならではの温かい配慮が感じられた。	これまでのイベント参加に加え、地域住民が抱える具体的な困りごとを収集し、解決に向けた事例検討を事業所会議の定例議題とする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	感染状況を見ながら地域行事の参加、散歩やドライブなど外出し地域に出向く機会を増やす。	感染状況を慎重に見極め、行事の開催やドライブなどの機会を設けた。外出の機会を増やしたことで、地域社会と触れ合う場を提供することができた。	感染症対策が続く中、慎重な判断のもとで「外出機会の確保」を実現させた。単に自粛するのではなく、散歩やドライブなど可能な形で進めた事で、利用者様の安全と社会参加の両立ができた。	散歩やドライブ等の外出機会の確保を継続しつつ、(買い物支援や地域行事に参加等)を検討する。安全管理を徹底しながら、利用者が「社会の一員」として、より質の高い交流機会を目指す。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で出た意見を事業所会議の議題として取り上げ改善に努める。	会議での意見（事故の対策等）を受け止め、事業所内での課題として共有しました。職員間で具体的な対策を検討し、実務への反映に努めた、運営の質を高めることができた。	地域の困りごとや心配事の検討が十分になされていない、具体的な事例の吸い上げも不足している。小規模として住民への情報提供や、緊急時の宿泊対応（レスパイト）など、柔軟な受け入れ態勢を整える。	小規模の強みを活かし、緊急時の宿泊対応（レスパイト）や情報提供の相談窓口としての機能を地域へ積極的に周知し、より開かれた事業所運営を目指します。
F. 事業所の防災・災害対策	今後、火災訓練に加え、地震災害などの訓練を合わせて行い、すべての職員が意識でき、有事の際の行動を理解する。	火災訓練に加え、地震災害を想定した訓練を実施しました。策定済みの BCP に基づいた実地訓練を行えたことで、防災意識を組織全体で高めることができた。	火災・地震を想定した BCP 訓練を実施し、防災意識を高める事が出来ている。しかし、地域住民としていざという時に頼れる事業所であるか不明といった意見も挙がっている。	写真や図解を用いた「災害時アクションカード」等を作成し、職員が即座に動ける体制を整える。地域住民に当事業所の防災体制を公開・共有することで、いざという時に「地域から頼られる拠点」としての信頼構築に努めます。

法人名	医療法人社団みどりの会 酒井病院
事業所名	小規模多機能ホームさかい

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー	矢野・石田・熊谷・田坂・藤井・赤松・鈴木・森澤・井上・大林・福山・坂本・寺脇
------	----------------------------------------

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	2025年11月11日(14:00~15:00)
-----	--------------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3人	10人	0人	0人	13人

前回の改善計画	申し送り事項や聞き得た利用者・家族の不安などの新たな情報や変更事項があった際には適宜職員間での共有を行う。加えて、ミーティングの中で事故報告・ヒヤリハットなど更新された情報を共有する時間をつくる。周知・統一事項を間違いなく実施できるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	申し送り事項や、ご利用者様・ご家族様からの新たな情報・変更事項については、発生時に職員間で速やかに共有できる体制を構築しました。また、定期的なミーティングにおいて事故報告やヒヤリハット情報を確実に共有する時間を設けることで、周知・統一事項の確実な実施を徹底している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	5人	8人			13人
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2人	7人	4人		13人
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	3人	10人			13人
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	2人	6人	5人		13人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること 情報共有と連携: 毎日のミーティング、申し送りノート、職員間の会話を通じて、利用者様やご家族に関する情報、体調変化、事故・ヒヤリハットの情報がチーム全体でタイムリーに共有されている。 個別ケアの実践: 利用者様の状況に応じた介護が提供されており、体調の変化に合わせた支援ができています。新規利用者への声かけなども実施されている。
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 業務を優先することがあり、本人の希望が後回しになることがある。ヘルパーや多職種間で意向が異なり、利用者様への一貫したケアができないことがある。 情報把握・連携の不足: ケアプランやフェイスシートの内容を全員が確認できていないため、個別の希望を把握できていない。新規の利用者が増えると、情報共有や把握が混乱して分からなくなることがある。 申し送りや軽微な会話での情報共有はできているものの、時々忘れてしまっている場合がある。
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 申し送りやミーティングでの情報共有だけでなく、重要な変更事項は記録に残し、全員の「確認サイン」を徹底する。
---------------	-------------------------------------------------------------------

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2025年11月11日(14:00~15:00)

2. 「～したい」の実現(自己実現の尊重)

メンバー 矢野・石田・熊谷・田坂・藤井・赤松・鈴木・森澤・井上・大林・福山・坂本・寺脇

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	6人	6人		13人

前回の改善計画
利用者の目標達成状況や希望など、各担当スタッフがミーティングの際に報告し情報の共有を行う。利用者個別の「目標」や「～したい」を随時、伝達する機会をつくる。 業務の状況によって、朝・昼・夕のタイミングで共有し、実施状況や振り返りもスタッフ全員で検討する。
前回の改善計画に対する取組み結果
利用者様の目標・希望の共有と進捗確認を目的としたミーティングおよび申し送りの時間を確保している。これにより、日々のケアにおける実施状況の振り返りと改善検討を継続している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?		9人	4人		13人
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		8人	5人		13人
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		5人	8人		13人
④	実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1人	3人	9人		13人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
現在の状況に合わせた介護・支援: 現在のADL(日常生活動作)に合わせた介護や、利用者の体調変化に応じた支援は実施できている。 情報共有: ミーティングや申し送りでの情報共有は継続して行えており、気づいた点は報告・共有できている。以前の暮らし方に関する情報収集: スタッフの協力により、以前の暮らし方に関する情報が前回よりも充実してきた。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
情報収集の難しさ: 認知症が進んでいる場合、本人の思いを言語化してもらうのは難しいと感じている。家族も昔の事を知らないケースが増えている。 情報収集・記録の時間不足: 情報票の不足や、記録・口頭で伝えるタイミングがない、時間がない、忘れてしまっているといった理由で、細かな情報を記録・共有できていない。 家族との関係: 家族と詳しく話す機会が少ない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
サービス提供開始時や終了時など、業務の中に情報収集・記録のための短い時間を意識的に組み込む。 家族との接点強化: 送迎時や電話連絡時など、短い時間でも必ず一言「最近お変わりないですか」などと声をかけることを全職員で徹底する。 事業所だよりを発行し、事業所の様子や情報を提供することで、家族との共通の話題を作る。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2025年11月11日(14:00~15:00)

3. 日常生活の支援

メンバー 矢野・石田・熊谷・田坂・藤井・赤松・鈴木・森澤・井上・大林・福山・坂本・寺脇

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	6人	2人	1人	13人

前回の改善計画	生活歴や思い出など、新たに知り得た情報はミーティング時に職員間で共有し、アセスメントシートに追加記録することで情報が集約でき、生活歴やご本人の思いを知るツールとして活用できるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	生活歴や思い出といった新たな情報は、ミーティングにて職員間で共有を図っている。これらをアセスメントシートへ集約・記録することで、ご利用者様の背景を理解し、より適切なケアを提供するツールとして活用に努めた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	1人	4人	4人	4人	13人
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	5人	8人			13人
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	3人	6人	4人		13人
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	5人	8人			13人
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	4人	7人	2人		13人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること 情報共有と連携：毎日のミーティング、申し送りノート、職員間の会話を通じて、利用者様やご家族に関する情報、体調変化、事故・ヒヤリハットの情報がチーム全体でタイムリーに共有されている。
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 個別ニーズ・生活歴の把握不足：利用者様全員の目標や、以前の暮らし方の詳細(10個以上)、事業所利用時以外の生活の様子まで把握しきれていない。記録や口頭伝達のタイミングがない、忘れてしまうといった課題がある。 意見交換の場不足：課題やできていない点について、職員間で深く話し合い、意見を出す機会や環境が不足していると感じる。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 以前の暮らし方や個別の目標に関する詳細情報(10個以上の具体的な項目)を体系的に聞き取るための専用シートを作成し、初期アセスメント時に必ず使用する。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2025年11月11日(14:00~15:00)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 矢野・石田・熊谷・田坂・藤井・赤松・鈴木・森澤・井上・大林・福山・坂本・寺脇

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?		5人	5人	3人	13人

前回の改善計画

各担当職員が意識して情報収集に努める。小規模のサービスを利用していない(自宅での)時間をどのように過ごしているか、情報を集めてアセスメントシートに記載する。そこからインフォーマルサービスの継続、介護者や地域との関係が切れないように支援を行う。

前回の改善計画に対する取組み結果

担当職員の情報収集への意識は向上しつつあります。ご自宅での過ごし方についてもアセスメントシートへの記載を進め、生活状況の把握に繋がりました。今後は、得られた情報を基に、インフォーマルサービスの継続支援や地域との関係構築といった具体的な支援の成果に繋げていきたい。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	1	5	5	1	13
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	1	4	6	2	13
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	0	4	7	2	13
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	0	1	6	6	13

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

以前の暮らしぶりが徐々にわかってきており、把握している利用者や家族とはコミュニケーションがよく取れている。知り得た生活スタイルは、現在のサービスに組み込まれている。
利用者・家族・事業所の三者間連携はしっかりと取れている。
本人の過ごし方はミーティングで共有できている。家族や介護者とは、何かあれば報告できている。
コミュニカフェへの参加など、地域資源の利用は一部できている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

「在宅に帰れない、自宅での生活が困難」といった理由で地域から孤立する方が多くなっている。
地域資源の把握や、地域との関係が切れにくいような支援ができていない。
地域のイベント参加がいつも同じ利用者で、全員は参加できていない。
参加しやすい利用者としにくい利用者で、地域活動への参加率に差が出ている。
事業所を利用していない時の生活や、自宅での過ごし方まで全ては把握できていない(情報収集が不十分)。
時間や職員の少なさで余裕がなく、利用者の意欲よりも業務を優先していることがある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

「在宅時の過ごし方」ヒアリングの徹底:
サービス利用時以外の生活状況(自宅での過ごし方、日課)を初期アセスメントや定期面談で重点的に聞き取り、アセスメントシートに追記・共有する。
得られた情報は必ず記録に残し、全職員が確認できる体制を徹底する。申し送りでの口頭伝達だけに頼らない仕組みを作る。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	2025年11月11日(14:00~15:00)
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	矢野・石田・熊谷・田坂・藤井・赤松・鈴木・森澤・井上・大林・福山・坂本・寺脇

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	8人	3人	2人	13人

前回の改善計画	地域の資源について情報を収集し、必要に応じて活用できるようにしておく。 地域イベントや認知症カフェや独自の支援サービスについて情報を利用者様、その家族にも必要に応じて情報提供を行っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	地域の社会資源に関する情報収集は実施したものの、最新情報への更新や活用に向けた具体的な計画の策定ができなかった。そのため、現在、ご利用者様・ご家族様に対し、地域イベントや支援サービスといった必要な情報を積極的に提供するには至っておらず、今後の課題としています。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	0	3	7	3	13
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	5	7	1	0	13
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか?	5	8	0	0	13
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	4	9	0	0	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること ニーズに合わせた小規模多機能のサービスの提供、通い・宿泊サービスの提供や、介護者への安心提供ができています。利用者の変化に気づきやすくする支援や、職員間での情報共有が日々行われている。変化があった際は即座に対応し、ミーティングで共有できている。 家族からのニーズに応じた利用形態(利用時間など)を提供できている。
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 地域資源の活用不足: 事業所のみで支えている利用者が多く、地域の資源(社会資源)を使った支援ができていない。 認知症カフェや地域イベントへの全員参加ができていない。 できていない理由: 計画やケアプランがしっかりと把握・行えていない場合がある。
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 全職員がケアプランやフェイスシートの内容(特に利用者様の目標や意向)を確実に確認するためのフローを構築する(例:朝礼での読み合わせ、確認サインの徹底)。 地域の社会資源(認知症カフェ、イベント、ボランティア、独自の支援サービスなど)のリストを職員全員が常に把握・活用できるように掲示・共有する。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2025年11月11日(14:00~15:00)

6. 連携・協働

メンバー 矢野・石田・熊谷・田坂・藤井・赤松・鈴木・森澤・井上・大林・福山・坂本・寺脇

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	0人	5人	8人	13人

前回の改善計画
ケアマネ・看護師のみではなく、介護スタッフも担当者会議に参加の機会をつくる。各スタッフが会議に参加・議事録を確認することで、本人・家族と意識して関わっていくことに努める。

前回の改善計画に対する取組み結果
介護スタッフの担当者会議への参加は、業務調整の都合上、限定的なものとなりました。議事録確認を通じた情報共有であったため、全スタッフにおけるご利用者様・ご家族様への意識的な関わりを徹底するという目標はあまり達成できませんでした。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?	0	0	6	7	13
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	0	2	4	7	13
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?	0	2	4	7	13
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	0	2	6	5	13

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
一日を通しての申し送り時に、各利用者について話し合っている。
看護学生の受け入れによって利用者様にも交流の機会をもてている。地域の集まりに参加することが出来ている。
施設利用者の状況:登録者以外の子供が訪れることはほとんどないが、たまに託児所の子供が屋上で遊ぶために通ることはある。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
ケアマネ以外の担当者会議や自治体、地域包括との会議等にほとんど参加できていない。
理由としては、人員不足があり会議に呼ばれていない、職員不足や介護量の増加による業務増大のため参加できない。コロナ以降、病院でのカンファレンスでも必要最低限となっている事も理由の一つとしてあげられる。高齢者や子供など地域住民はあまり訪れない理由として、施設が奥にある、入りづらい、わかりづらいといった立地や環境の課題が挙げられている。他の機関や地域住民との関わりがほとんどない理由として、管理者・ケアマネに任せてしまっている現状がある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
特定の職員(管理者・ケアマネ)だけでなく、他の職員も交代で会議に参加する体制を作り、情報収集の機会を均等にする。
管理者が参加した会議やイベントの情報は、必ず全職員にフィードバックし、意識の統一と連携への理解を深める。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2025年11月11日(14:00~15:00)

7. 運営

メンバー 矢野・石田・熊谷・田坂・藤井・赤松・鈴木・森澤・井上・大林・福山・坂本・寺脇

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3人	8人	2人	0人	13人

前回の改善計画

利用者家族からの意見や苦情について、職員全員で把握し対応を検討する。利用者様やご家族には、適宜ご意見がないかお聞きすることで、苦情に繋がらない様にする。また、実習生や来訪者にも、気になったところなど意見の聴取を行うことも検討する。
事業所として利用者・家族に安心して利用して頂けるように努める。

前回の改善計画に対する取組み結果

利用者様・家族様からの意見・苦情に対して、全職員での共有と対応策の検討を徹底しております。定期的な意見聴取により、苦情の発生を未然に防ぐように心がけました。実習生・来訪者からの意見も参考にすることで、事業所全体のサービス向上と安心感の提供に努めています。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?	3	6	4	0	13
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	8	0	1	13
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	3	6	1	3	13
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	0	5	4	4	13

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

新たな情報や変更事項の共有、周知・統一事項の実施は概ねできている。ミーティングでの事故報告・ヒヤリハットの共有も行われている。
地域の方の申し出や苦情に対し、組織全体で考えて行動しようと努めている。
家族の介護負担等の状況把握は意識している。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

地域の方への情報発信や、地域との関わりができていない。
家族からの訴え・依頼があるも、対応出来ない事がある。おかしいと直接言うとトラブルになる可能性があるため、直にスタッフが対応するのではなく、管理者・主任に報告し対応するようにしている。
スタッフが課題をネガティブに捉えてしまい、前向きな改善策に繋げることができない事がある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

ご家族からの訴えや依頼があった際は、必ず一度、管理者または主任に報告・相談するルールを再徹底する。これにより、対応のばらつきやトラブルを未然に防ぐ。
対応が難しいご家族からの依頼や懸念事項は、職員間で共有し、管理者・主任を含めて組織的に対応策を検討する場を設ける。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2025年11月11日(14:00~15:00)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 矢野・石田・熊谷・田坂・藤井・赤松・鈴木・森澤・井上・大林・福山・坂本・寺脇

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	5人	6人	2人	13人

前回の改善計画	スキルアップの為に外部研修に参加できるように、情報提供や自身での情報収集を行う。 また、研修に参加しやすい環境を整える
前回の改善計画に対する取組み結果	研修に参加できた職員とできなかった職員が混在する状況となった。参加できた職員の成果は認められるものの、参加できなかった職員へのフォローアップや、全員参加に向けた体制構築が今後の課題。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	3	6	4	0	13
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	2	3	4	4	13
③	地域連絡会に参加していますか	0	2	2	9	13
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	2	6	4	1	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること リスクマネジメントについて職員間の話し合いや、ヒヤリハット・インシデントの共有はできている。 職場内の研修には毎月参加できている。 外部研修の資料は置いてあり、学びの機会はある。
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること スキルアップ研修や職場外の研修、地域連絡会への参加ができていない。 研修への参加は、他の職員に迷惑をかけるという考えが先行し、また若いスタッフに優先権を譲りたい気持ち強い。 職員が少なく、研修のための休暇取得が難しい。 休日は自身の趣味に使いたいため、研修に参加できていない。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 可能な限り、休日ではなく勤務時間内に研修に参加できるよう調整する。 研修で学んだ知識が給与や昇進に反映されるなど、スキルアップが自身のキャリアに繋がるメリットを明確に提示し、参加へのモチベーションを高める。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	2025年11月11日(14:00~15:00)
------------------	-----	--------------------------

9. 人権・プライバシー	メンバー	矢野・石田・熊谷・田坂・藤井・赤松・鈴木・森澤・井上・大林・福山・坂本・寺脇
--------------	------	----------------------------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	2人	10人	0人	1人	13人

前回の改善計画	成年後見制度の把握、虐待の研修 認知対応の研修を行うことで、人権に対しての意識を持ち適切な対応に繋げる。事業所内で、ご利用者の尊厳が守られるような関わりを意識できるよう研修を行っていく。
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

前回の改善計画に対する取組み結果	成年後見制度の基礎知識、虐待・認知症への適切な対応に関する研修を実施し、職員の人権意識の向上を図りました。概ね全ての職員がご利用者様の尊厳を守る関わりを意識できるようになりましたが、今後も継続的な研修を通じて、より一層意識の定着に努めていく。
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 身体拘束をしていない	9人	4人			13人
② 虐待は行われていない	11人	2人			13人
③ プライバシーが守られている	2人	8人	3人		13人
④ 必要な方に成年後見制度を活用している		4人	4人	5人	13人
⑤ 適正な個人情報の管理ができています	2人	9人	2人		13人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること 拘束・身体抑制の禁止：身体的拘束や不必要な待機指示は、基本的に行われていない。 利用者のプライバシーは守られている、
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 個人情報管理の甘さ：紙媒体の記録を置いたままにするなど、紛失のリスクがある。 トイレ介助中、ドアを開けたままにすることがある。トイレが狭く、ドアを閉めたまま介助できない場合がある。他の利用者の前で個人の話をしてしまうことがある。 入浴が流れ作業のようになり、浴室でのプライバシー保護が不十分な場合がある。 スピーチロック(言葉による拘束)：忙しさから「少し待って下さい」などの言葉を発してしまうことがある。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 「少し待って下さい」といったスピーチロックに繋がる言葉を禁止し、「お手伝いしますね、すぐ戻ります」といった代替の声かけを職員間で統一・徹底する。 浴室での声かけやタオルワーク等、プライバシー保護の技術を再確認する研修を行う。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------